

視覚的情報から疑問を持たせる 中学社会科の授業づくり

— ICT 機器を用いて —

学籍番号 179965

氏名 井上 義崇

大学院主指導教員 寺嶋 浩介

1. 研究の背景と目的

文部科学省中学校学習指導要領解説社会編（2017）では、「社会的な見方・考え方」が注目されている。「社会的な見方・考え方」とは、「課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の視点や方法」（文部科学省2017）である。しかし、現在の学校現場では、課題を追究したり解決したりする活動、いわゆる問題解決的な学習が充分に行われていないというのが現状である。

そこで本研究では、問題解決的な学習の学習課題を設定するために、視覚的情報（資料・史料）から多面的・多角的な疑問を生徒に持たせるための授業実践を行い、評価することを目的とした。

2. 研究方法

本研究は、中学3年生（約40名×5クラス）を対象とし、発展課題実習Ⅰでは歴史的分野、発展課題実習Ⅱでは公民的分野で実施を行った。そのために、手順として「①視覚的情報から疑問を持たせるワークを実施し、生徒の疑問を収集」し、「②収集した疑問を分類し、多面的・多角的な疑問を生徒に持たせることが出来ていたかを分析」した。実践で用いる視覚的情報（資料・史料）の条件として2つ用意した。「(1)授業参考書や授業例等で用いられているもの」「(2)疑問を持たせるために必要な視点を達成できるもの」である。(2)では、中央教育審議会の「『社会的な見方・考え方』を働かせたイメージの例」に記述されている「考えられる視点」（以下視点とする）を参考にし、手順②の分類もこれを基に行う。

3. 研究の成果と課題

歴史的分野では、「①推移や変化に関わる視点（変化、時代の転換など）」「②諸事象の特色に関わる視点（相違、共通性など）」「③事象相互の関連に関わる視点（背景、結果）」の3つの視点を網羅した多面的・多角的な疑問を持たせるための史料を用い、導入（授業開始5分）でワークを行った。その結果、「③事象相互の関連に関わる視点」からの疑問を持った生徒が、9割を占める結果となった。公民的分野では、「①現代社会を捉える視点（平等・法的安定性など）」「②社会に見られる課題の解決を構想する視点（自由・権利と責任・義務など）」の2つの視点を網羅した多面的・多角的な疑問を持たせる

ための資料を用い、導入でワークを行うために必要な前知識を理解させる時間を設定した後、展開（授業開始 15 分）でワークを実施した。その結果、「④現代社会を捉える視点」からの疑問を持った生徒が 8 割を占める結果となった。

発展課題実習 I と II の授業で用いた資料が、多面的・多角的な疑問を持たせる資料（史料）であったかについての評価結果を以下の表 1 で示す。

表 1 各実践の疑問集計の正確二項検定結果

		** : p < .01		
単元名		複数視点	単一視点	両側検定
発展課題実習 I (導入でワーク実施)	大戦景気と米騒動	51 (33.6%)	101 (66.4%)	** (p=0.0001)
	新しい文化と生活	3 (1.9%)	157 (98.1%)	** (p=0.0000)
	みんなで育てる 人権意識	56 (36.4%)	98 (63.6%)	** (p=0.0009)
発展課題実習 II (展開でワーク実施)	基本的な人権を 守るために	11 (7.1%)	144 (92.9%)	** (p=0.0000)

※1 検定は各単元（各行）で行っている

※2 視点の数字は、上：人数、下：合計に対する割合（小数点第 2 位四捨五入）

表 1 より、「大戦景気と米騒動」「みんなで育てる人権意識」の 2 つの単元が残りの 2 単元に比べて複数視点から疑問を設定した人数が多いという結果が出た。これは、授業で用いた資料（史料）が「前回の単元とのつながりを持っている」「生徒にとって身近な資料であったか」という二つが達成されているか否かによるものだと考えられる。複数視点から疑問を設定した人数が少ない結果となった「新しい文化と生活」では前回の単元とのつながりが希薄な史料であったこと、「基本的な人権を守るために」では生徒にとって身近な資料ではなかったことが挙げられる。これらの結果より、授業で活用する資料（史料）を選択する条件として、「単元のめあてを達成できる」ことを第一とし、「前回の単元とのつながり」「生徒にとって身近な内容である」という計 3 つの点に留意する必要があると筆者は考えた。その点を踏まえ、授業で用いる資料（史料）の選択を支援するチェックシート（図 2）を作成した。今後はチェックシートの活用、改善を行い、授業における有効な資料（史料）選択を効果的に行えるようにする必要がある。

授業単元	実施学年	【授業後（どのような疑問が出たか？ / 活用した資料（史料）の成果・課題点）】	
使用教科書			
資料（史料）名			
授業のめあて			
		資料（史料）選びのポイント	チェック欄
①		生徒のレベルにあった資料（史料）である	
②		生徒主体（個人 or グループ）で読み取ることの出来る資料（史料）である	
③		生徒にとって見やすい（明瞭な）資料（史料）である	
④		多面的・多角的な視点からの疑問を発することの出来る資料（史料）である	
⑤		授業のめあてに関連した疑問を持たせることが出来る資料（史料）である	
⑥		生徒にとって身近な内容の資料（史料）である	
⑦		生徒が住んでいる地域との関連がある資料（史料）である	
⑧		生徒の興味・関心を高めることの出来る資料（史料）である	
⑨		今までの単元とのつながりを持たせることの出来る資料（史料）である	
⑩		今後の単元につなげることの出来る資料（史料）である	
⑪		他の資料（史料）との比較や関連付けが出来る資料（史料）である	
⑫		生徒に着目してほしい資料（史料）の箇所は明確である	
⑬		資料（史料）を活用する場面は定まっている	
⑭		『「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージの例』の以下の項目を確認し、該当するものに○をつける（複数可）	
規則性・傾向性・地域差・自然的条件・社会的条件・環境・環境保全・伝統・関係性・相互性・ 一般的共通性・地方的特殊性・時期・年代・時代区分・変化・発展・時代の転換・時代の特色・共通点・ 相違点・背景・原因・結果・影響・個人の尊重・自由・平等・法的安定性・多様性・ 「自由・権利と責任・義務」			

図 2 資料（史料）選択を支援するチェックシート